



## 第50号の発刊です

昨年古希を迎え「七十歳からの挑戦」として皆さまに地域情報や市政のことをお伝えしてまいりましたが、通過点として50号は一つの目標にしていました。これからはさらに研鑽して、高齢者世代の先頭に立って高齢者施策の充実を図るとともに、若者世代を支援していくことが我々世代の果たすべき役割であることを認識して、子育て支援や若者支援に尽力してまいります。

なお50号の配布につきましては従前通りに①メール配信 ②ライン配信 ③地域のポスティング ④駅頭での手渡し ⑤事務所掲示板への掲示 ⑥訪問時の手渡しなどでさせていただくほか、今回は⑥地域限定で新聞折込を利用させていただくと同時に、⑦登録していただいている後援会皆さんに郵送させていただきます。⑧また今後、毎号郵送をご希望の方はお電話等で下記宛ご連絡ください。なお政務活動費を使わせていただきますので、送料は無料です。ご遠慮なく申し付けください。

連絡先：(TEL) 072-982-5127

(FAX) 072-985-6972

携帯：090-8164-5857

メール：nakanishi.jimusho@gmail.com

LINE申込



## ■東大阪の財政は大丈夫なのか ～令和3年度の決算から

皆さんからよく聞かれる質問です。建物や道路の建設のようなハード事業にお金を使うのか、住民福祉に使うのか、どの分野に重点的にお金をどう使うかは立場によって賛否両論の有るところですが、財政全体から見ると東大阪市は財政運営が堅実で心配はないと言えます。コロナ禍で経済活動に大きなダメージを受けて、令和2年度に続いて市税などの歳入が減り、給付金などで歳出が増えて市政に大きな影響が出るのではないかと心配されたところですが、国からの新型コロナ対策臨時交付金もうまく活用し、5年連続で単年度収支の黒字を達成しています。

### ★実質収支は27年連続の黒字

東大阪市は、花園ラグビー場の改修や文化創造館の建設など大型公共事業を行いながら、ラグビーWカップを成功させスポーツや文化のまちづくりの実践してきました。また中学校給食や小学校校舎の空調など大きな予算が必要な事業を、限られた財源の選択と集中で実現させ、27年連続で実質収支の黒字を実現してきました。大きな時代の変化がある中で、ハード事業とソフト事業のバランスをとりながら黒字運営を続けることはたいへんなことだと思います。その点に関して野田市政の4期16年を高く評価したいと思います。

## ★借金（市債）や貯金（基金）はどれくらいあるのか

市債は令和2年度より減ったものの約1,745億円あり、一般会計の財政規模が約2,332億円であることを考えると、多いのではないかとと思われる人がいるかもしれませんが、市債は主に公共施設の建設など大きな予算が必要な時に借りることができるのですが、それを単年度で賄うと他の行政サービスに使えるお金が減り、その年度の住民負担が大きくなりすぎるので、長期で借入れて毎年返済していくことは世代間の公平を図る意味からも必要となります。

気をつけなければいけないのは、PFIと呼ばれる方式で事業をする場合です。例えば文化創造館建設には建設費に122億円かかしましたが、建物ができた後の運営も含めて（運営費68億円）大林組を中心とした事業体と15年間（190億円）の契約をして毎年事業体に支払いをしていくやり方です。市が122億円を借入して建設すると市債になるのですが、PFI方式だと契約にそった履行になり市債にはカウントされません。しかし市債と同じように将来に負担すべきお金であることに変わりありません。いま東大阪市でPFI方式で実施している事業は、文化創造館の建設のほか消防局庁舎の建設、旭町庁舎の建設、市営住宅の建替え、小学校教室の空調、小中学校の体育館の空調などですが、安易にPFI事業を認めると将来の負担が増えるし、PFIは運営まで契約に含まれ金額が大きくなり利権にも結び付きやすいので要注意です。ただ現状では、借金返済に充てることのできる可能財源のほうを上回っているので財政健全化の指標である「将来負担比率」はゼロであり、健全であるということが出来ます。

一方【基金（貯金）】のほうは、公共施設整備基金のような使いみちの決まった基金を含め331億円あり、とりわけ不意の出費のための財政調整基金は177億円（令和3年末）積立てており、コロナ禍のもとで前年より11億円増やして財政担当の皆さんの力量がわかります。しかし積立てることが目的ではないので、ここというときには大胆な支出が必要ではないでしょうか。

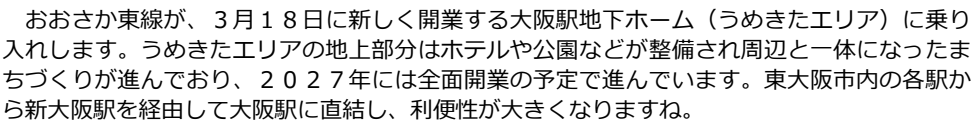
## ■これから益々必要になる高齢者の雇用対策 ～シニア向けお仕事説明会に参加して

1月26日（木）に、55歳以上の方のためのシニア向けお仕事説明会があり、見学させていただきました。高齢者が仕事に就きたいと思うと、これまではシルバー人材センターで仕事を探すという方法がありました。しかしシルバー人材センターの設立の趣旨が高齢者の雇用の促進というよりは、高齢者の生きがいのためや仲間づくり、健康のためというもので、年金生活を補完するものとして考えられてきました。しかし高齢化が進んで年金の支給額が減ってきて、支給開始年齢も上がってくると、生活のために働かなければならない人が増えてきて、シルバー人材センターが時代のニーズに合わなくなってきたのも確かなことです。国でも高齢者の雇用問題について対策を講じるようになってきて、高齢者が年齢にかかわらず働くことができる企業を拡大するために助成金制度を設けたり、再就職支援の充実強化をはかったり、いろいろな対策を講じるようになってきました。

東大阪市でも、ハローワークと連携して高齢者の就活支援を始めており、この日も高齢者の雇用に積極的に取り組む企業が来て仕事内容を説明し、相談に応じるなどして、55歳以上の働きたい高齢者を企業とつないでいました。高齢者も自分で仕事を探し個別に企業と交渉するより幅広く情報を得ることができ、より就業に繋がりがやすいなと思いました。シニア向け就職支援はいろいろなメニューを毎月実施しており、就職を希望する高齢者のみなさんは、ぜひ一度お問合せください。

【お問合せ先】 シニア向け就職支援事務局 06-4306-5360（平日の9:00～17:30）

## ■おおさか東線が、3月から大阪駅まで乗入れ



## ■大阪メトロ、咲州（万博会場）まで延伸

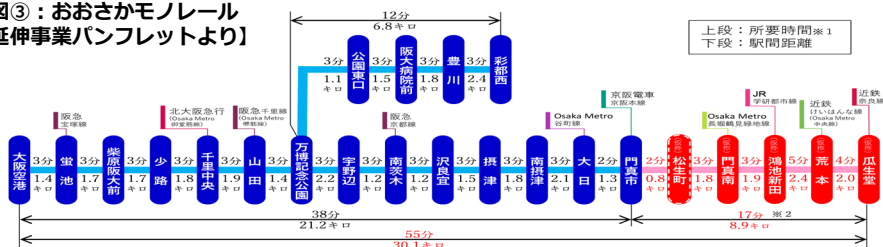


2025年に開催される関西万博に先立ち、大阪メトロ中央線が、来年には会場になる夢洲まで延伸します。すでに咲州と夢洲を結ぶ夢洲トンネルは舞洲にオリンピックを誘致するときに完成しており、今度の工事は夢洲駅までの鉄道南ルート of the 工事に なります。万博開催時には南からのルートは地下鉄で結ばれ、東大阪市内からは万博会場まで直結することになり、この延伸事業は東大阪市にとっても重要な事業ということが言え、経済発展の大きなチャンスとなります。舞洲を経由した北からのルートは大阪メトロの延伸が計画されているもののまだ具体化されておらず、万博時には車でのアクセスだけになるので、南鉄道ルートがたいへん重要になります。

## ■大阪モノレール、2029年に延長工事が完成予定

～大阪モノレール延伸事業で東大阪市内に新駅誕生！

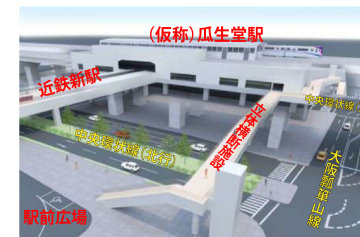
【図③：おおさかモノレール  
延伸事業パンフレットより】



3

## ★（仮称）瓜生堂駅と近鉄奈良線の新駅

瓜生堂駅では近鉄奈良線に新駅ができ、奈良線との乗り継ぎで大阪空港に直結します。また奈良方面へのアクセスが便利になります。この周辺が大きく変わることは間違いありません。駅予定地の北に車庫ができる予定で、すでに工事がスタートしています。



【图④：瓜生堂地区】

【図  
⑤】

★（仮称）荒本駅

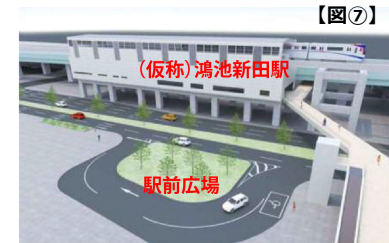


【图⑥】

（仮称）荒本駅は、市庁舎の目の前の旧イオン跡地（府有地）に建設されるので市役所へのアクセスも断然よくなります。またイオン跡地の西側に駅舎ができますが、東側については、府は駅前拠点にふさわしい機能を有する複合施設の提案があったところに売却する予定です。

## ★（仮称）鴻池新田駅

JR学研都市線へ乗り換えができます。学研都市線はJR東西線に直通するほか、おおさか東線や大阪環状線と接続し利便性が高くなります。JRの駅は、駅前広場と乗り換え経路が整備されつながります。



【図⑦】

4

Aburo 東大阪市長 中西のぶひろの  
週刊なのタイムス



「なかにし」「のぶひろ」の頭文字から名づけた「**なのタイムス**」…実は「**ナノ**」という長さの単位でもあります。「1ナノ」は10億分の1  $\text{nm}$  という途轍もなく小さな単位ですが、私たち一人ひとりと地球規模からいうと途轍もなく小さな存在であり、そんな小さな声なき声を集めて、ボトムアップの政治を目指します。